

中小企業振興会議 労働雇用部門会議 議事要旨

日時	令和元年8月21日（水）午後2時から午後4時まで
場所	クリエイション・コア東大阪 南館3階 研修室
出席者	○中小企業振興会議委員5名、 衣笠部会長、西松委員、田中委員、檜尾委員、織田委員
	○オブザーバー 糸野中小企業振興会議会長
	○事務局 東大阪市経済部労働雇用政策室 大西室長、久保室次長、樋口総括主幹、兵頭主査

会議の経過は以下のとおり。

【質疑・意見要旨】

案件（1）2年間の労働雇用部門会議のテーマ【資料1】、

案件（2）労働雇用政策室の事業【資料2、3、4】について説明。

- **（委員）** 労働雇用政策室の事業において、実際に市内企業に就職した人数などはわかるのか。
- **（事務局）** アンケートなどをもって、人数は把握している。次回以降の部会の中で示す予定である。
- **（委員）** 中小企業の中でも、人材不足の意味が変わってきている。今までは人手が不足していたが、今は人材の確保に苦慮している。5年、10年先の次世代を担う人材の確保ができない。
- **（委員）** 企業側の発信の内容を変えていかななくてはいけない。今の若い人は、お金よりもどのような生活ができるか、5年後にどのような生活ができるのか、そのためには、この会社がどんなふうに使えるかといったことに結構ウェイトを置いている人が増えてきていると感じる。企業側へのアプローチの中で、市内企業の意識を変えていく必要があるのでは。労政の事業をみると、特効薬がないのはわかるが、施策をまんべんなく行っているように思う。事業そのものを集約して行えることができれば。あまりにも事業がたくさんあって、力が分散しているのかなと感じる。
- **（部会長）** さらに細かい数字に関しては次回以降に示してもらえるのか。
- **（事務局）** テーマごとに、説明していきたい。
- **（部会長）** 貴重なご意見をいただいた。まんべんなく事業を行っていると、まんべんない成果しか出ないのではないか。なるべく絞った方が効果が出るのでは、ということ。今のご意見は、事業所向けアンケート、学生向けアンケートに活かしてもらいたい。
- **（委員）** 東大阪市の人口の中から、若者は何名、39歳以下は何名、女性は何名、障害者は何名、高齢者は何名なのか、人口に対するそれぞれの割合を知りたい。労働雇用政策室の中で様々な事業を行っているが、参加者数が非常に少ないし、就職した人にかぎっては1桁となっている。今後に向けてアプローチを行っていく必要があると思われる。
- **（事務局）** 今は資料を持ち合わせていないが、男女別、5歳ごとの人口の資料がある。また、用意させていただく。
- **（委員）** 若者は住んでいる人よりも、大学に通っている人が多いのではと思うが、そのあたりの把握はできるのか。

- **(事務局)** できる。
- **(部会長)** 若者といっても、その内訳についても把握できれば良いかと思う。
- **(事務局)** 学生の総人数は把握できる。その方が市内在住か市外在住かは調べてみないとわからない。
- **(部会長)** 事業をまんべんなく実施しているので、データもまんべんなく示しているが、特に力を入れていきたいことがあれば。
- **(事務局)** 市全体として取り組んでいく課題としては、人口減少問題が大きなことと考える。就活ファクトリーでは若者と女性を対象としているが、若者については、市内に大学が多数あり、そこに通っている学生の方にその後も住んでもらいたい。女性については、特に子育て世代は、これから定住が始まる世代であり、出産で人口増も期待できる。そういうことで、若者と女性については前回の部会で取り組んできた。今回の部会では、若者、女性も含めて多様な人材ということでの人材確保について取り組んでいきたい。その中で、全庁的な議題となっているのが外国人雇用の問題。雇用だけではなく、教育や、全ての部署において外国人が重要な事項になっている。障害者の方については、法定雇用率が上がるという話もある。若者、女性以外にも高齢者、障害者、外国人についても議論していきたいと思う。これから企業アンケートを行って、結果次第ではあるが、どこにめりはりをつけていくかは検討していきたいと思う。
- **(委員)** 東大阪市だけでなく、日本全体で人口が減ってきており、経済的にはマイナス。人材不足になってきて、単純労働者を受け入れないと言ってきた日本が、4月から単純労働者を多数受け入れている。そしたら、これから、なかなか1つの室で発信はできないが外国籍の人と日常生活をしていく街のビジョンがいるのでは。市内にある、例えば4万人くらいの大学生の力を、ショートタイムで、得意な力を出してきてもらって、経済活動の一端を担ってもらい、そういったこともできる街である。外国人との街づくりの中で、新しい文化が芽生えていくなどのビジョンがないと。また、高齢者に関しても、東大阪に住んで、東大阪で働くと、60歳になっても良い年齢の重ね方ができる、そんなモノづくりの街といった画を描くこともできる。統計の数を示すにあたって、労政室としてのビジョンを教えてほしい。
- **(事務局)** 次に説明するアンケートの話があるが、そのアンケートは企画室と行うもので、企画室の主たる目的が、人口減少をどのように克服していくべきかという計画を立てるにあたり、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」というのがあり、それに基づいて就活ファクトリーの運営を行うことになったが、新しい「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を作るということになっている。その中で多様な人材の確保、こういった形で来てもらって働いてもらうかなどを調べながら、人口減少対策を立てていこうと考えている。まさに、そういった中にビジョンを入れていくべきかと思う。企画の方にも意見を申し述べていきたい。
- **(オブザーバー)** ビジョンをぜひとも挙げていただきたい。東大阪で働くことで得られるものがある、働くことで見えることがある、そういったビジョンを提案という形で親会議でもあげていただければ。
- **(部会長)** ビジョンを念頭に置きながら、部会を進めていきたい。

案件（3）事業所向けアンケート【資料5】について説明

- **(委員)** 事業所向けアンケートは、企業が何を抱えているかをあぶりだそうということな

ので、事業所の一般事項のところ、トイレは男女兼用か、ロッカー室の配置はどうか、シャワールームがあるか、社員食堂はあるかなどの、インフラ部分といったところをきく必要があるのでは。インフラが整っているかどうかで、人材確保事情についての差がでるのかどうか。また、学生とのマッチングでは、経営理念をもっているかどうか、社員の教育制度があるかどうかなど、細かくはなるが、そういう項目を入れてもらったほうが。単に、事業所の規模、業種だけでは、人が足りているかどうか、女性が働いているかどうか、といったことにはつながらないと思う。理念があるか、インフラが整備されているかで差が出てくれば、その情報を共有して、そこから着手してもらおう。フィードバックする相手が企業だとすれば、どういったところに問題が内在しているのか、具体的な内容が見えてくるようなアンケート項目をつけてもらえればと思う。

- **(部会長)** クロス集計を効果的に行う際に、設備投資についてなどは大きいと思う。働こうと思った際に、働ける環境なのかどうかなど。学生も、見た目が綺麗などで心が動いたりする。そのあたりの項目を足してもらえれば。
- **(事務局)** ご意見はいただいておりますが、トイレが別か、ロッカーは別かなどといった、細かい内容は難しいと思う。設備投資はどうか、といった聞き方なら。
- **(委員)** できるだけ、具体的な内容がひっぱりだせる形にしないと、せっかくアンケートをするので。項目が多くなるとページ数が増えるといった問題はあるが。書き方というか、そこに対して期待するような回答が返ってくるような、内容にしてもらいたい。
- **(事務局)** 企画へは報告する。
- **(委員)** アンケートの中で、障害者雇用について触れられていないのはなぜか。
- **(事務局)** 企画室の、今回の大きなテーマが、人口ビジョンを踏まえて市の施策を策定していくということ。労政室としては、障害者雇用に関する施策を行っているが、今回のアンケートに関しては、対象とするのは難しい。労政室としては事業を行っているので、今後、どのような方向性で進めていけばよいのか、についてはご意見をいただきたい。次回以降の部会では、年に1回、「はたらく・くらすフォーラム」というイベントを行っており、今後、どのように進めていけばよいかということについて、ご意見をいただきたい。
- **(部会長)** このアンケートは「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するにあたっての、基礎資料の一つということか。
- **(事務局)** そうです。
- **(部会長)** 障害者雇用について、他のアンケートや資料といったものは。
- **(事務局)** もちろん、統計資料や、その他の資料について、できるだけ収集し、それに基づいてご議論いただければと思う。
- **(委員)** きちんと示してほしい。何もないということは避けてもらいたい。
- **(委員)** 女性や、高齢者を雇用するようになったベースになったのが、トライアルで障害者の方を雇用したことだった。その方の障害に合わせた合理的配慮を行ったことが、女性や高齢者の雇用に繋がっている。東大阪の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」という中に、障害者が入っていないということは、どこをもってダイバーシティというのか。
- **(部会長)** 働きやすさとか、合理的配慮に特化した内容もいるかと思う。
- **(部会長)** 人材育成をする余裕があるのかどうか、アンケートから知ることができれば。即戦力がほしいのか。人を育てるには、時間とお金がかかるので、そこを把握できる質問がほしい。また、離職者に関する項目は、離職者をださないための取組の話題があがったが、中途採用の離職と、新卒採用の離職の現状は違ってくるので、それが分かる項目が

あればと思う。全業種に対するアンケートということで、どれくらい分散するかはわからないが。規模はどうか。

- **(事務局)** 限定していない。ある程度、分散させてと聞いている。
- **(部会長)** どのように選定していくのか。
- **(事務局)** これから決まっていく。業者選定後、打合せを行っていくかと思う。その際に、こちらでいただいたご意見なども伝えていきたい。業種の割合なども、まだ確定していない。
- **(委員)** 製造業の事業所数は多いが、求人は、他の業種からのものも多い。新卒がまずとれない。中途採用も難しい。それだけ求職者の方が減ってきている。製造業の方は、若い方がほしいが、若い方は製造業を希望されない。サービス業とかの方が、若い方が希望する。製造業が土日休みといっても、サービス業を希望される。昔の工場というイメージを持っているが、今では、工場も綺麗にされているし、力仕事もそれほどない。そのあたりのことを、もっと見せていけば。イメージを変えることができれば。
- **(委員)** 弊社では女性が多く、女性の働きやすさは、もちろん設備的な部分もあるが、働き方の多様性を求めている社員が多い。例えば、午前中だけとか、親の介護があるので、週3回だけでよいとか。家庭の事情に合わせた働き方というのを希望される。そこに合わせてあげられるかどうか、働きやすさであると思う。今後、企業側も、どこまで多様な働き方を提案できるか。そういった仕組みをつくっていくことが重要なことだと思う。それが、女性の雇用、働きやすさにつながっていると思う。アンケート項目にそういったことを取り入れていって、企業の気付きにつながっていけば。
- **(部会長)** アンケートについてはこれからということで、これまでの意見を反映してもらえれば。
- **(委員)** 65歳以上の従業員で、週休3日、週休4日の方がいて、女性の休みに合わせてもらっていて、極端に人が少ない日などがないようにしている。逆に多様な人材が働いてくれることで、働き方の多様性とかが可能になってくる。
- **(委員)** 銀行や大企業でのキャリアを持った女性の方が、週3日でいいと希望される。今は子育てに力を注ぎたいからといった理由。企業側からすると、とてもありがたい。例えば、2人の正社員を雇うよりは、5人くらいのパートさんに来ていただいて、いろいろなスキルを発揮してもらおうと、会社の利益にもつながる。そういう女性がたくさんおられてもつたいないと思う。そういう方が子育てから解放されれば、正社員になって定年まで働くという考えもある。
- **(部会長)** アンケートで「フレックス」とかいう名称で聞くのではなくて、そういう柔軟な制度があるかどうかという聞き方ができないか。
- **(委員)** 求人がフルタイムで出ていたりする。なかなか雇用ができない場合、時間を短くしたり、日数を減らしたりできないかと求人企業に提案するが、今来ておられる方がフルタイムなのでなかなか難しいという所もわりとある。働きたい方はたくさんおられるが、フルタイムだと難しいという方もおられる。給料も大切だが、働き方の時間帯などを重視したりする。パートを希望される方は、近くを望まれるので、時間に柔軟性があれば、もう少し採用できるのではないかと思う。
- **(委員)** パートは時間に融通がきくといった形で求人をだしていても、厳しいと感じる。
- **(委員)** 有効回答数が1,000程度だが、どれくらいの数送るのか。
- **(事務局)** 回収率はだいたい2割程度を想定。

- **(部会長)** アンケート項目で、東大阪の意向がわかるというか、例えば、現状どうしていますかだけでなく、どういうふうに考えていますかという質問も大事。気付きにつながればと思う。最終的な完成形については示してもらえるのか。
- **(事務局)** そうです。データももらう予定なので、独自の集計も可能かと思う。

#### 案件（3）学生向けアンケート【資料6】について説明

- **(部会長)** 日程の関係から、大幅な変更はできないということだが、意見を反映できる余地があるとのこと。東大阪市内の大学生だけではないので、就活ファクトリーの場所を示したイラストで宣伝してはどうか。
- **(部会長)** 学生がこういったことに着目しています、といったことを企業へ示すためのアンケートか。
- **(事務局)** そうです。市内の学生が、市内の企業に対してどのように思っているかを聞きたいと思っている。
- **(委員)** 合同企業説明会の説明などはあるのか。近々開催されるものがあれば、日時や場所を入れて情報の提供をしてはどうか。また、注目する情報に関する選択肢については、もう少し詳しくしてはどうか。
- **(委員)** このアンケートの目的は、労働雇用政策室の事業を、より効果的な手法へと変えていくというのがメインかと思うが、学生側からしたら、面倒くさいと感じると思う。集計のイメージがわからない。学生の就職に対するイメージをみたいのか、実施している事業を知っているか、参加したいかを知りたいのか。両方きいているのかと思う。もう少し、聞き方を考えてはどうか。何かぼやけたアンケートになるのではないかと思う。
- **(オブザーバー)** 配布して行うのか。WEBでもよいのでは。その方が回収率が高いのでは。
- **(部会長)** そのあたりは議論があり、情報が多すぎて、なかなか回答しない。その場で回収と言う事であれば回答してくれるが。段取りはどうか。
- **(事務局)** 会議所と相談しており、確実に、その場で回収するというかたちで進める。

#### 案件（4）今後のスケジュールについて説明